

研究の背景および目的

高度に情報化しグローバル化した現代社会では、多様な個を認め合い、協同的問題解決を図る能力が求められています。私たちの研究室では、芸術・文化の活動を通しながら、「共に学ぶ力」の育成を目指しており、参加者自らが体験するワークショップのスタイルをとっています。特に最近では、日本の伝統文化である絵巻を題材とした異文化理解のワークショップ、「なりきりえまき」を展開しています。

■ おもな研究内容

絵巻をつかったワークショップ「なりきりえまき」の実践例（フィレンツェ大学）

- 1 絵巻の説明
絵巻では場面や時間が展開することを説明
- 2 ストーリーづくり
写真背景にあわせてストーリーをつくる
- 3 絵巻の登場人物に「なりきる」
ポーズをとってデジカメで撮影する
- 4 絵巻作成
撮影した画像をプリントアウトし、背景にコラージュする
- 5 発表会



1 絵巻の説明



2 ストーリーづくり



3 絵巻の登場人物に「なりきる」



- 4 絵巻作成
- 5 発表会

完成した絵巻の例
「てつや、フィレンツェへ行く」



期待される効果・応用分野

期待される効果としては、1) 絵巻の鑑賞方法とその特徴を学ぶことができる、2) 「なりきる」行為によって身体による表現や学びを促進する、3) 双方向的な異文化理解（学習）ができる等があります。これまで作成された絵巻も、身体化による表現を取り入れたことによって、ダイナミックで重層的な表現が見られました。また、グループで活動するため、現代社会に欠如している「共に学ぶ力」を促進するきっかけにもなります。

■ 共同研究・特許などアピールポイント

●これまで、国内の美術館はもとより、ヨーロッパ（イタリア・フィンランド・英国）の大学や高校で実践研究を行ってきました。今後は、アジアやアフリカ諸国でも展開していきたいと考えています。

🗨️ コーディネーターから一言

「なりきりえまき」は参加者が身体で表現、異文化理解もできる楽しいワークショップです。芸術・文化活動を通じた「共に学ぶ力」育成の手段として、国内だけでなく広く海外でも実践するための協力を求めています。

研究分野	日本美術史、近世のやまと絵、在外日本美術コレクション、鑑賞教育、ワークショップ
キーワード	伝統文化、アートによるコミュニケーション、身体化、異文化理解、協同的学び